

2026年度 広島大学眼科専門研修プログラム

1. プログラムの目的

1. 基礎・臨床知識、検査・診療技術、顕微鏡手術を主体とした手術手技を、専門別外来・病棟・手術室研修を通じて習得する。
2. チーム医療の実践と医の倫理を学び、患者・家族への適切な対応と信頼関係を構築できる態度を身につける。

2. 研修体制

基幹施設：広島大学病院（年間総手術：約 2,700 件）

統括責任者・指導管理責任者：坂口 裕和（診療科長）

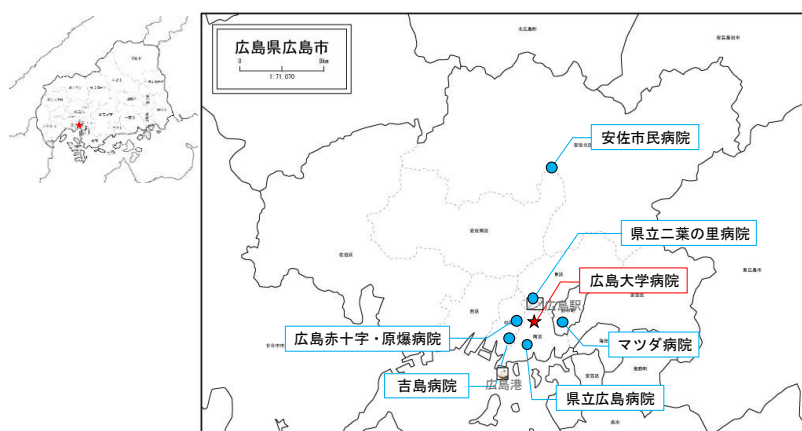
指導医：坂口裕和（網膜硝子体・白内障）、近間泰一郎（角結膜）、廣岡一行（緑内障・白内障）、末岡健太郎（眼形成）、福戸敦彦（角結膜・白内障）、小松香織（斜視・弱視・白内障）、日山知奈（ぶどう膜・網膜硝子体・白内障）

症例・手術（2023年：広島大学病院）：総 2,703 件（白内障 883、緑内障 763、網膜硝子体 590、角結膜 271、眼形成 140、斜視 40）

ローテーション：グループ1（緑内障・白内障・斜視・弱視）／グループ2（角結膜・屈折矯正・眼窩・眼付属器・神経眼科）／グループ3（網膜硝子体・ぶどう膜）

連携施設：県立広島病院、広島市立安佐市民病院、広島赤十字・原爆病院、JA 尾道総合病院、市立三次中央病院、済生会呉病院、広島総合病院、吉島病院、県立二葉の里病院、マツダ病院、呉医療センター、ツカザキ病院、木村眼科内科病院。

関連病院 (広島市内)



関連病院 (広島市外)



3. 募集・応募

募集定員：7名

研修期間：2026年4月1日～2030年3月31日（4年間）

研修配置：1年目＝基幹／2-3年目＝地域／4年目＝地域または基幹（大学院進学・研究可）

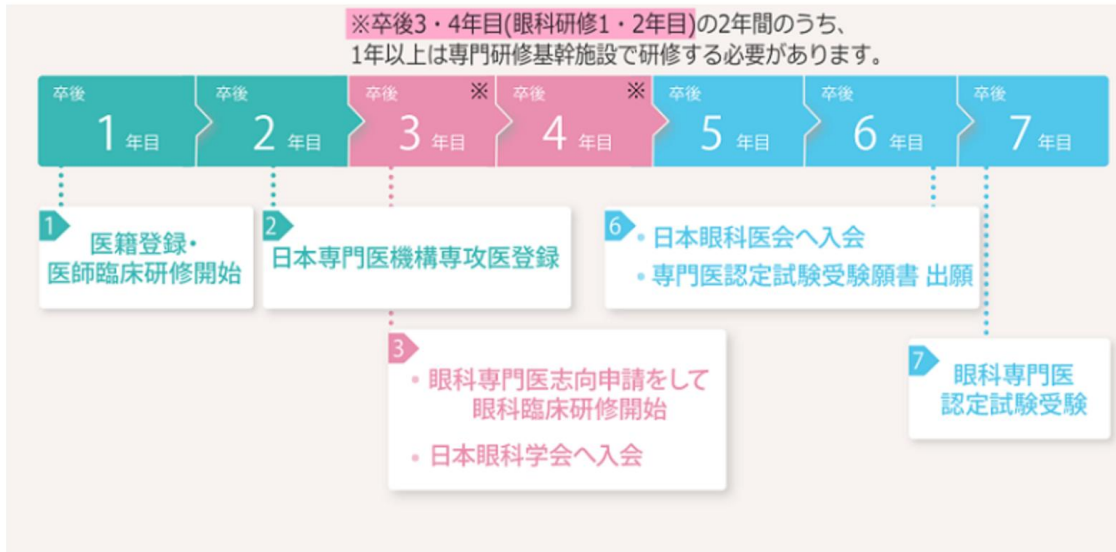
応募資格：1)日本国医師免許証 2)医師臨床研修修了登録証（2026年3月31日までに修了見込み含む）

応募期間：2025年10月末日（予定）～

選考方法：書類選考＋面接（日時・場所は別途通知）

応募書類：願書、希望調査票、履歴書、医師免許証の写し、医師臨床研修修了登録証の写し

最終申請：JSMBにて



4. 研修計画（基幹：広島大学病院）

- ・ 年間：4月オリエンテーション／4-7月クルズス／6-3月で1週間の休暇
- ・ 学会・研究会：地方会・症例検討会（年5回等）、全国・国際学会での発表機会
- ・ 論文作成
- ・ 医療安全管理職員研修会、院内感染防止対策研修会：各年2回

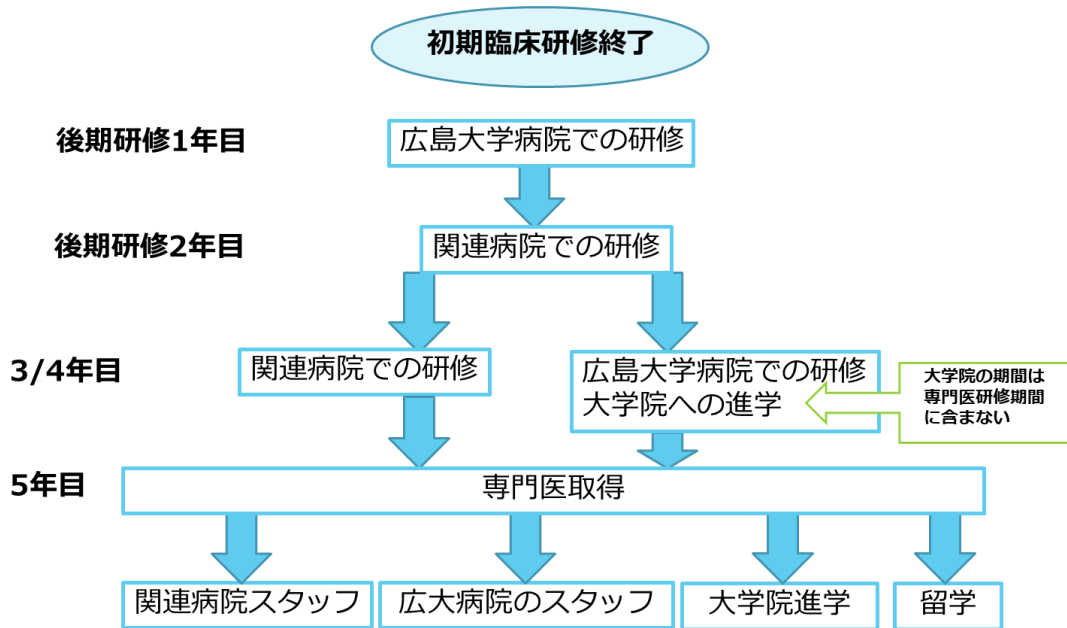
5. 到達目標（概要）

- ・ 専門知識：6領域（1）角結膜，2）緑内障，3）白内障，4）網膜硝子体・ぶどう膜，5）屈折矯正・弱視・斜視，6）神経眼科・眼窩・眼付属器）と他科連携の知識を習得。
- ・ 専門技能：診察・検査・診断・処置・手術（外眼・白内障・斜視）・手術管理（緑内障・網膜硝子体の助手・術後管理）・ロービジョンケア。
- ・ 学問的姿勢：自己学習、EBM実践、研究参画・発表・論文。
- ・ 倫理性・社会性：患者対応、チーム医療、医療安全、地域医療、ロービジョン、後進指導など。
- ・ 年次目標：1年目 基本臨床能力／2年目 基本技能の確立／3年目 高度手術手技・学会発表・後進指導準備／4年目 主体的治療・後進指導。

6. 症例経験・手術

- ・ 総手術経験：執刀者・助手の合計100例以上。
- ・ 各領域執刀：内眼手術／外眼手術／レーザー手術 それぞれ20例以上を執刀。
- ・ 代表術式（抜粋）：白内障（PEA+IOL、ECCE+IOL、二次挿入）、緑内障（観血的虹彩切除、線維柱帯切開・切除、その他減圧）、網膜硝子体（硝子体手術、強膜内陥）、角膜移植、強角膜縫合、眼内異物摘出、涙嚢鼻腔吻合、斜視・眼形成、網膜

光凝固、YAG 後発白内障切開 ほか。



7. 評価・運営

- 評価：指導医（3 か月毎）／統括責任者（6 か月毎）／プログラム委員会・領域専門研修委員会の内部評価／サイトビジットによる外部評価。
- 管理委員会：統括責任者・連携施設担当者・専攻医・他職種で構成。研修の管理と継続的改良、修了判定の審議を担う。
- 就業環境：労務・当直区分・休養・有給時のバックアップ等に配慮。

8. 修了・申請

- 修了判定：4 年以上の研修、目標達成、管理委員会評価に基づく統括責任者の認定。
- 専攻医の手続：修了判定後、日本専門医機構 眼科領域専門医委員会へ受験申請。医師以外 1 名以上からの評価も受ける。

9. 認定基準・施設群

- 基幹施設の認定基準：初期研修基幹病院相当、専門医 8 名以上、年間手術 700 件以上、症例検討会の定期開催、研究実績、医療安全・倫理・労務部門、サイトビジット対応 等。
- 連携施設：専門性・地域性に基づき選定、指導管理責任者配置、症例検討会の定期開催。
- 施設群体制：相互に研修プログラムを持ち、カンファ・症例検討会で情報共有。僻地・離島等では基幹が責任を持ち週 1 回以上の指導。地理的分布は地域医療に配慮。

- 受入れ数・診療実績：指導医 1 人あたり専攻医 3 人（4 年間平均）。診療実績は基幹：内眼 2114、外眼 198、レーザー391。施設群合計：内眼 10,479、外眼 829、レーザー2,542。

10. 休止・中断・プログラム移動

- 大学院、海外留学（同行含む）、出産・育児・病気・介護、その他委員会が認める場合。
- 産休は研修期間に算入（産前 6 週＋産後 8 週）。休止・復帰申請により残期間を補う。
- 大学院在籍中の臨床実績は証明の上で算定可。

11. 研修記録・フィードバック・サイトビジット

- 記録：眼科領域研修委員会の研修記録簿（Excel）を使用。指導内容を時系列で共有し、定期的に評価・改善。
- 評価頻度：指導医＝3 か月毎／統括責任者＝6 か月毎。
- サイトビジット：専門医機構の評価に対応し、委員会にフィードバックして改良。

12. 連絡先

〒734-8551 広島県広島市南区霞 1-2-3

広島大学大学院 視覚病態学 専攻医募集担当

TEL：082-257-5247 / FAX：082-257-5249

E-mail：ganka@hiroshima-u.ac.jp

URL：http://home.hiroshima-u.ac.jp/ganka/